

# 検査機器を用いた脊柱の検査に係る体験会 実施報告書

文部科学省委託事業「脊柱の検査等に関する理解増進事業」

令和8（2026）年3月

## 目次

はじめに .....	2
第1章 検査機器を用いた脊柱の検査等に係る体験会 .....	3
1. 体験会の概要 .....	3
2. 体験会開催に向けた準備 .....	4
3. 体験会の実際の様子 .....	5
第2章 体験会参加者へのアンケート .....	11
1. アンケート調査の内容 .....	11
2. アンケート調査の結果 .....	13
(1) 体験会来場者の属性区分 .....	13
(2) 認知 .....	14
(3) 理解度 .....	15
(4) 準備 .....	16
(5) 共有 .....	17
(6) 導入意向 .....	18
(7) 導入時期 .....	19
(8) 課題 .....	20
(9) 満足度 .....	21
(10) 体験会で最も役に立った内容・意見 .....	22
(11) 意見・要望等 .....	23
第3章 総括・今後への課題等 .....	24

## はじめに

脊柱側弯症とは、脊柱（背骨）が横（側方）に曲がった（ねじれた）状態を指し、主に、思春期の女子に多く発症する疾患である。症状が進行すると、側弯変形による心理的ストレスの原因や腰痛、背部痛、呼吸機能障害、まれに神経障害を伴うことがある。

現在、学校の定期健康診断において、家庭による保健調査票等の情報を参考に、学校医が視触診等による検査を行っており、学業を行うのに支障があるような疾病等が疑われる場合は、医療機関への受診を勧めるなどの事後措置を行うこととなっているが、一部の教育委員会では、視触診だけではなく、専用の検査機器を用いた脊柱の検査（以下「検査機器を用いた検査」という。）も行っている。

検査機器を用いた検査を実施することにより、客観的根拠に基づく、より正確で均質な検査の提供や、デジタルデータによる経年比較、精密検査機関への円滑な連携、早期発見・早期治療による児童生徒への負担軽減等の効果が見込まれる。

これまで、文部科学省において、令和4年度及び令和5年度に検査機器を用いた検査の導入状況等の実態調査<sup>i</sup>を行ったほか、実証研究の実施や各学校において検査機器を導入する際の参考となる「検査機器を用いた脊柱の検査の準備の手引き」<sup>ii</sup>（以下「手引き」という。）を作成した。

実態調査の結果によれば、検査機器を用いた検査を導入していない教育委員会の多くから、「視触診における検診で満足いく結果が得られている」と回答したほか、「そもそも何のことも全くわからない」という回答も見られた。

このため本事業では、教育行政関係者や教職員等を対象に、検査機器を用いた検査等に係る体験会を開催し、脊柱の検査の意義や脊柱側弯症等の疾病への理解が、教育現場において着実に広まることを目的とする。

---

<sup>i</sup> 文部科学省「脊柱側弯症検査に関する調査研究事業 資料集」（令和6年（2024年））  
[https://www.mext.go.jp/content/20240411-mxt\\_kenshoku-000031776\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20240411-mxt_kenshoku-000031776_2.pdf)



<sup>ii</sup> 文部科学省「検査機器を用いた脊柱の検査の準備の手引き」（令和6年（2024年））  
[https://www.mext.go.jp/content/20240415-mxt\\_kenshoku-000031776\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20240415-mxt_kenshoku-000031776_1.pdf)



# 第1章. 検査機器を用いた脊柱の検査等に係る体験会

## 1. 体験会の概要

体験会は、教育行政関係者や教職員、学校医等を対象に、全国8か所において開催した。

体験会当日は、検査機器を展示し、参加者が検査機器を用いた検査を実際に体験することを通して、脊柱の検査の意義や脊柱側弯症の疾病への理解促進を図った。また、体験会終了後には、参加者に対してアンケート調査を実施した。

### 【体験会開催一覧】

回	日時	開催自治体	開催場所
第1回	R7/7/29 (火)	神奈川県川崎市	川崎市コンベンションホール (川崎市)
第2回	R7/8/4 (月)	岡山県	ピュアリティ まきび (岡山市)
第3回	R7/8/7 (木)	北海道・札幌市	TKP札幌駅カンファレンスセンター (札幌市)
第4回	R7/9/4 (木)	香川県	あなぶきアリーナ香川 (高松市)
第5回	R7/9/11 (木)	宮城県	東京エレクトロンホール宮城 (仙台市)
第6回	R7/10/6 (月)	和歌山県	県民交流プラザ和歌山 (和歌山市)
第7回	R7/11/5 (水)	埼玉県	TK大宮ビジネスセンター-ANNEX (大宮市)
第8回	R7/12/26 (金)	群馬県	ビエント高崎 (高崎市)

※開催自治体やその近隣の自治体に限らず全国各地からの参加可能とした。

## 2. 体験会開催に向けた準備

### (1) 開催地自治体の選定

文部科学省から都道府県・指定都市教育委員会に希望調査を行った上で開催自治体を選定した。

### (2) 検査機器の準備

体験会で展示する検査機器については、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」に基づき届出又は認証されている一般医療機器又は管理医療機器のうち、令和7年4月時点で販売・供給されている機器を準備した。

### (3) 体験会の開催準備

体験会の実施内容は、脊柱の検査に関する説明、検査機器の展示・体験、アンケート調査等であり、これらを実施するために下記の準備を行った。

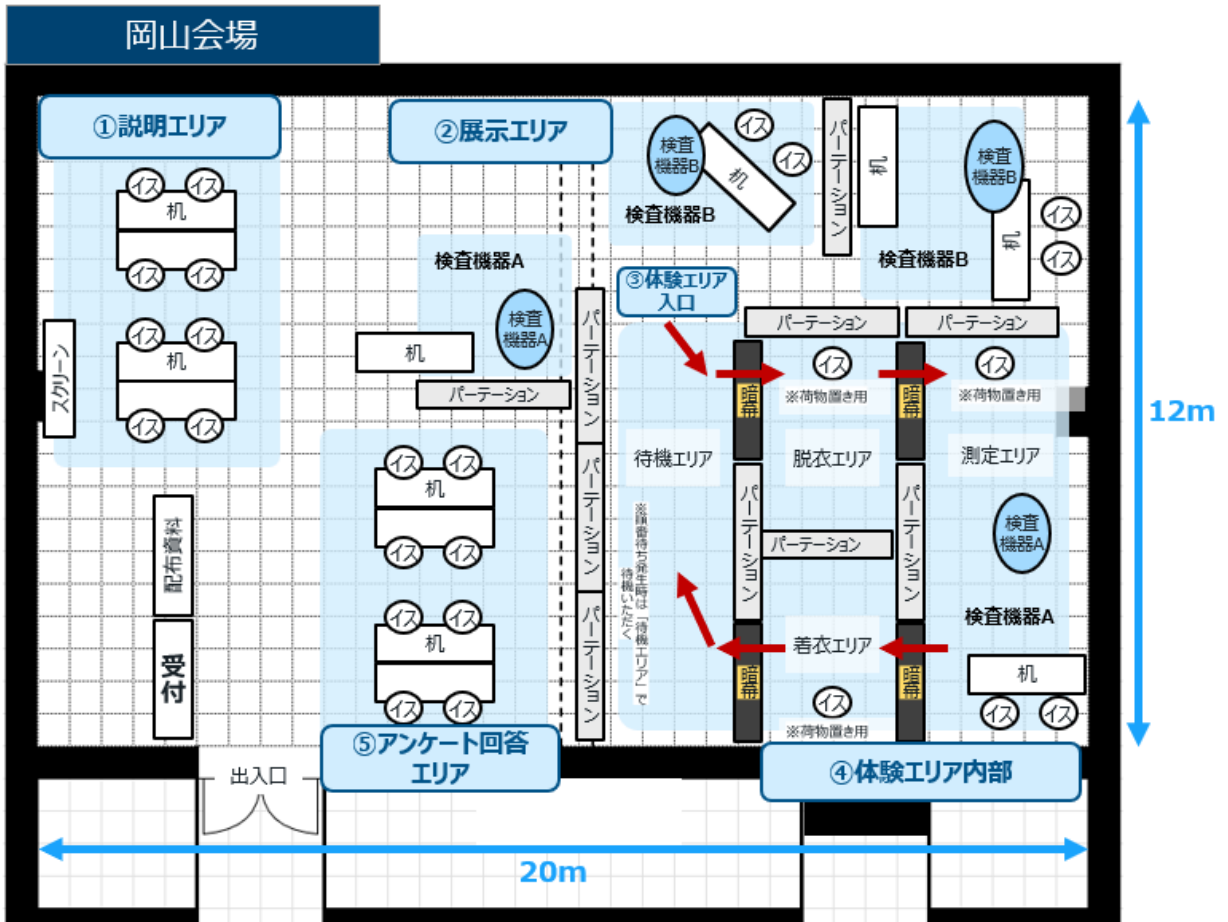
- 脊柱の検査に関する説明：脊柱側弯症の概要、検査機器を用いた脊柱の検査について説明
- 検査機器の展示：検査機器の説明、実際に検査機器を見ることができる展示
- 検査機器の体験：「手引き」等を参照し、学校で実施する場合の参考となるレイアウト設定、プライバシーに配慮した設営を行った上で、実際の検査を体験
- 体験会での配布物：「手引き」を参加者へ配布
- 各開催自治体との日程調整
- 実施会場の検討・開催手続き
- 各回の開催案内の作成、情報周知
- 事前申込フォーム作成・申込の取りまとめ
- 体験会に関する問合せ先の設定、問合せ対応

### (4) 体験会の会場レイアウト

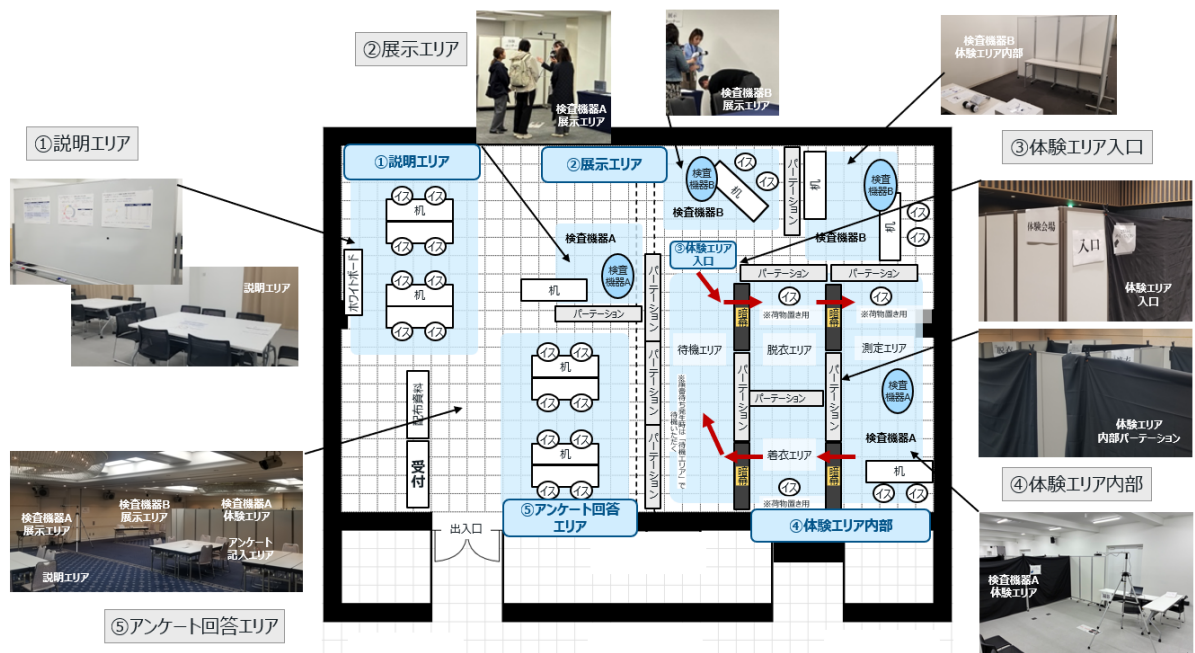
各体験会の会場に合わせて、展示ブースと体験ブースを設けるための会場レイアウトの検討を行った。

### 3. 体験会の実際の様子

以下は、岡山会場における会場レイアウト及び写真を掲載する。



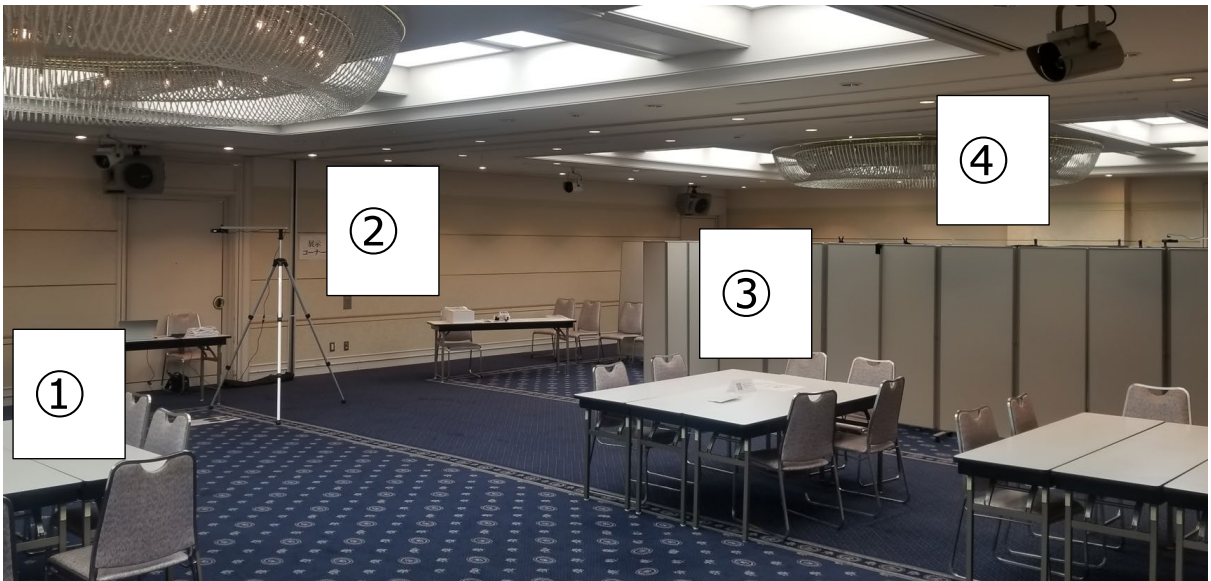
【会場レイアウト図】



【全体像】会場レイアウトと各エリアの様子



① 説明エリア（受付、事前説明） ⑤アンケート回答エリア



① 説明エリア、②展示エリア  
③ 体験エリア入口（パーテーション）、④体験エリア内部



① 説明エリア（脊柱側弯症・検査機器の概要説明資料掲示）



② 展示エリア

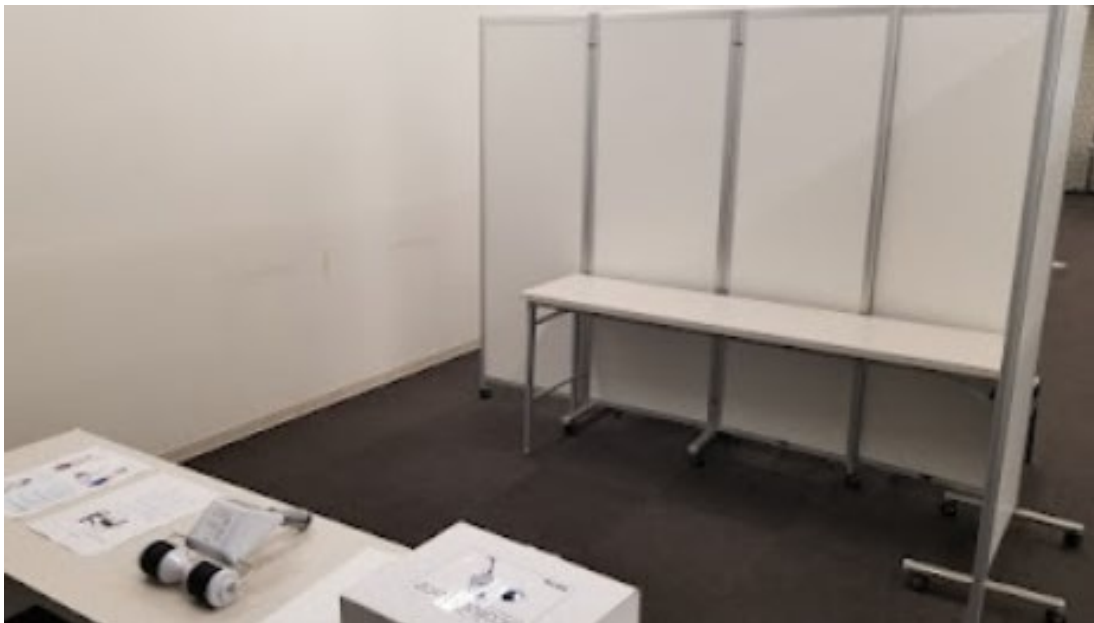


② 展示エリア





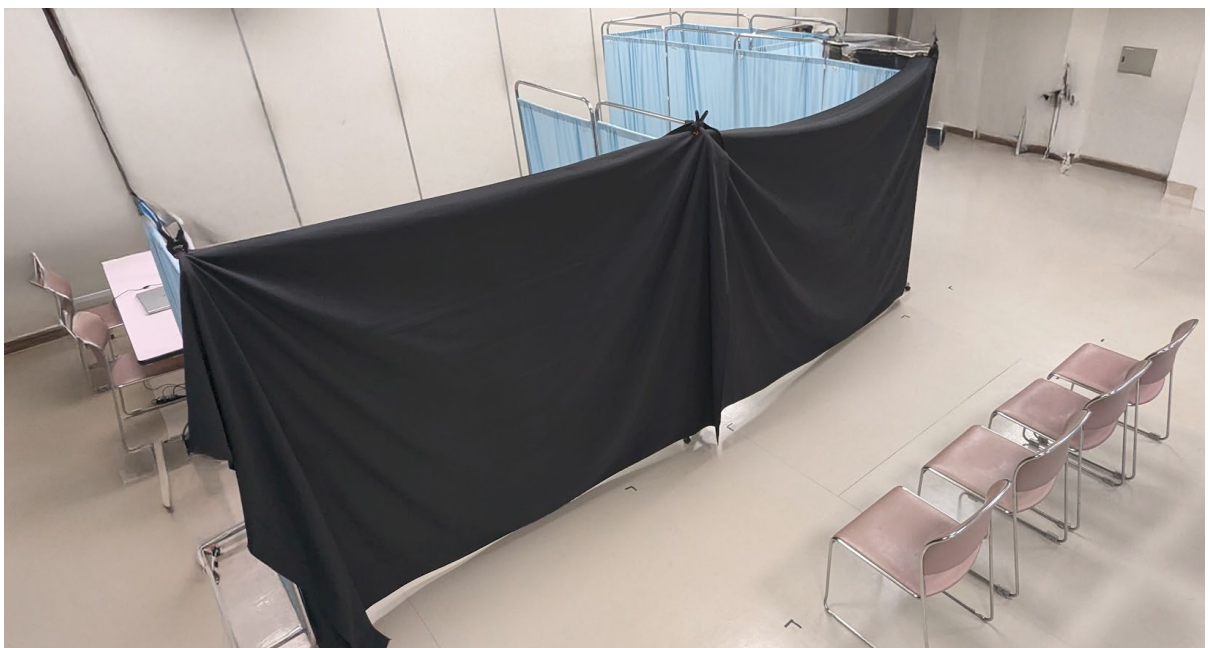
④ 体験エリア内部



④ 体験エリア内部



体験エリア（脱衣の場合）全体像



体験エリア（着衣の場合）全体像

## 第2章. 体験会参加者へのアンケート

### 1. アンケート調査の内容

体験会参加者を対象として、体験会終了後にウェブフォームを用いたアンケート調査を実施した。

#### 来場者アンケート

#### 検査機器を用いた脊柱の検査（体験会）

本日は体験会にご参加いただきありがとうございました。ご来場者の皆様からのフィードバックをもとに、今後も体験会の運営と内容を改善して参りたいと考えております。つきましては、ご意見・ご感想をお聞かせくださいますようお願いいたします。

- 質問1** どちらの所属区分でいらっしゃいますか。（あてはまる番号1つに○を付けてください）
1. 教育行政関係者
  2. 教職員
  3. 学校医
  4. 保護者
  5. その他：\_\_\_\_\_

- 質問2** 本体験会にご参加いただく前、検査機器を用いた脊柱の検査について、どの程度ご存知でしたか。（あてはまる番号1つに○を付けてください）
1. まったく知らなかった
  2. 検査機器の存在は知っていたが、文部科学省作成の「検査機器を用いた脊柱の検査の準備の手引き」の存在や実施方法等の詳細は知らなかった
  3. 検査機器の存在や「検査機器を用いた脊柱の検査の準備の手引き」の存在は知っていたが、それらの詳細等は知らなかった
  4. 検査機器や「検査機器を用いた脊柱の検査の準備の手引き」を知っており、それらの詳細等も知っていた
  5. 既に学校の健康診断において実施しており、知っていた

- 質問3** 本体験会を通して、検査機器を用いた検査の実施方法は理解できましたか。（あてはまる番号に○を付けてください）



アンケートは裏面に続きます。1.教育行政関係者、2.教職員、3.学校医の皆様は、「質問4」へお進みください。4.保護者または5.その他の皆様は、「質問9」へお進みください。

※質問4～質問8は、**1. 教育行政関係者、2. 教職員、3. 学校医**の方のみ お答えください。

**質問4**

検査機器を用いた検査の準備に要する時間は、実際の運用に際して妥当でしたか。（あてはまる番号に○を付けてください）



**質問5**

本体験会で学んだ内容を職場・関係者に共有したいと思いますか。（あてはまる番号に○を付けてください）



**質問6**

本体験会を踏まえ、貴自治体または貴校にて検査機器を用いた脊柱の検査の導入の検討をしたい/してほしいですか。（あてはまる番号1つに○を付けてください）

- 1. 検討の予定なし
- 2. どちらとも言えない
- 3. 検討したい/してほしい
- 4. 導入済み

**質問7**

導入の検討をしたい/してほしい場合、いつ頃の導入を検討/希望していますか。（あてはまる番号1つに○を付けてください）

- 1. 1年以内
- 2. 2-3年以内
- 3. 未定

**質問8**

検査機器の導入の検討において課題と思われることはありますか。（あてはまる番号 すべて に○を付けてください）

- 1. 特になし
- 2. 検査実施事業者や読影者の確保
- 3. 実施体制構築
- 4. 予算の確保
- 5. その他： \_\_\_\_\_

※質問9以降は、**全員** ご回答をお願いいたします。

**質問9**

本体験会の総合的な満足度についてお聞かせください。（あてはまる番号に○を付けてください）



**質問10**

本体験会で最も役に立った内容についてお聞かせください。（自由記述）

[ \_\_\_\_\_ ]

**質問11**

本体験会をより良くするためのご意見やご要望がございましたらお聞かせください。（自由記述）

[ \_\_\_\_\_ ]

ご協力ありがとうございました。

## 2. アンケート調査の結果

各開催地における体験会参加者及びアンケート回答者数は以下のとおりである。体験会の開催状況（事前申込人数・体験会参加人数・アンケート回答人数）を、開催地ごとに報告する。アンケート結果の詳細については、各設問別に報告する。

### (1) 体験会来場者の属性区分

8か所の体験会の来場者数合計は、374人であった。そのうち、教職員 246人（65.8%）、教育行政関係者 76人（20.3%）であった。各会場の来場者人数の内訳は下記の通りである。

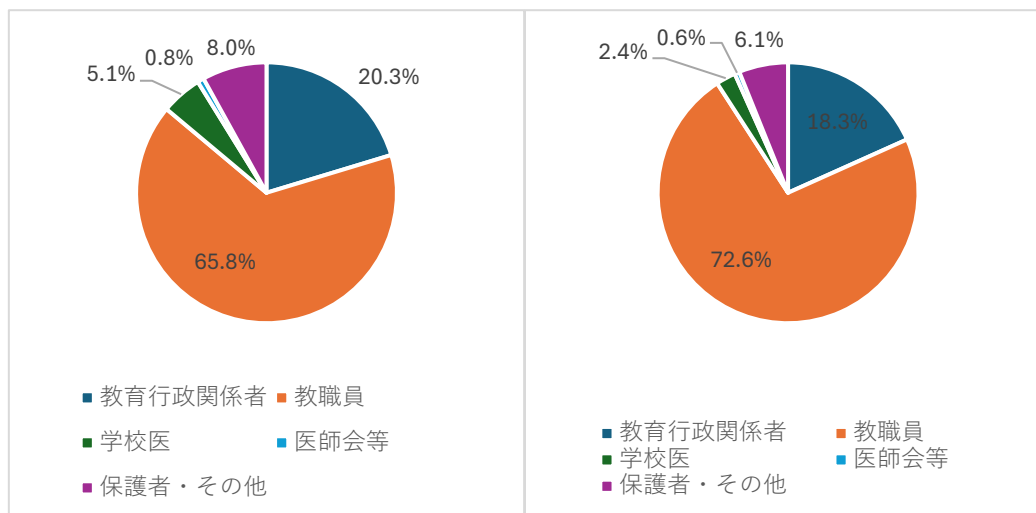
図表 2-1 体験会来場者数（人）

	川崎市	岡山県	北海道 札幌市	香川県	宮城県	和歌山 県	埼玉県	群馬県	合計 (人)	割合 (%)
教育行政関係者	14	4	11	3	6	20	9	9	76	20.3%
教職員	55	46	49	38	7	19	15	17	246	65.8%
学校医	3	3	6	0	0	7	0	0	19	5.1%
医師会等	0	0	2	0	0	1	0	0	3	0.8%
保護者・その他	0	3	3	13	0	6	2	3	30	8.0%
<b>合計</b>	<b>72</b>	<b>56</b>	<b>71</b>	<b>54</b>	<b>13</b>	<b>53</b>	<b>26</b>	<b>29</b>	<b>374</b>	<b>100.0%</b>

図表 2-2 アンケート回答者数（人）

	川崎市	岡山県	北海道 札幌市	香川県	宮城県	和歌山 県	埼玉県	群馬県	合計 (人)	割合 (%)
教育行政関係者	11	3	9	2	3	14	9	9	60	18.3%
教職員	52	46	48	38	7	15	15	17	238	72.6%
学校医	0	3	3	0	0	2	0	0	8	2.4%
医師会等	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0.6%
保護者・その他	0	3	1	9	0	2	2	3	20	6.1%
<b>合計</b>	<b>63</b>	<b>55</b>	<b>63</b>	<b>49</b>	<b>10</b>	<b>33</b>	<b>26</b>	<b>29</b>	<b>328</b>	<b>100.0%</b>

図表 2-3 体験会来場者所属区分（%） 図表 2-4 アンケート回答者の属性区分（%）



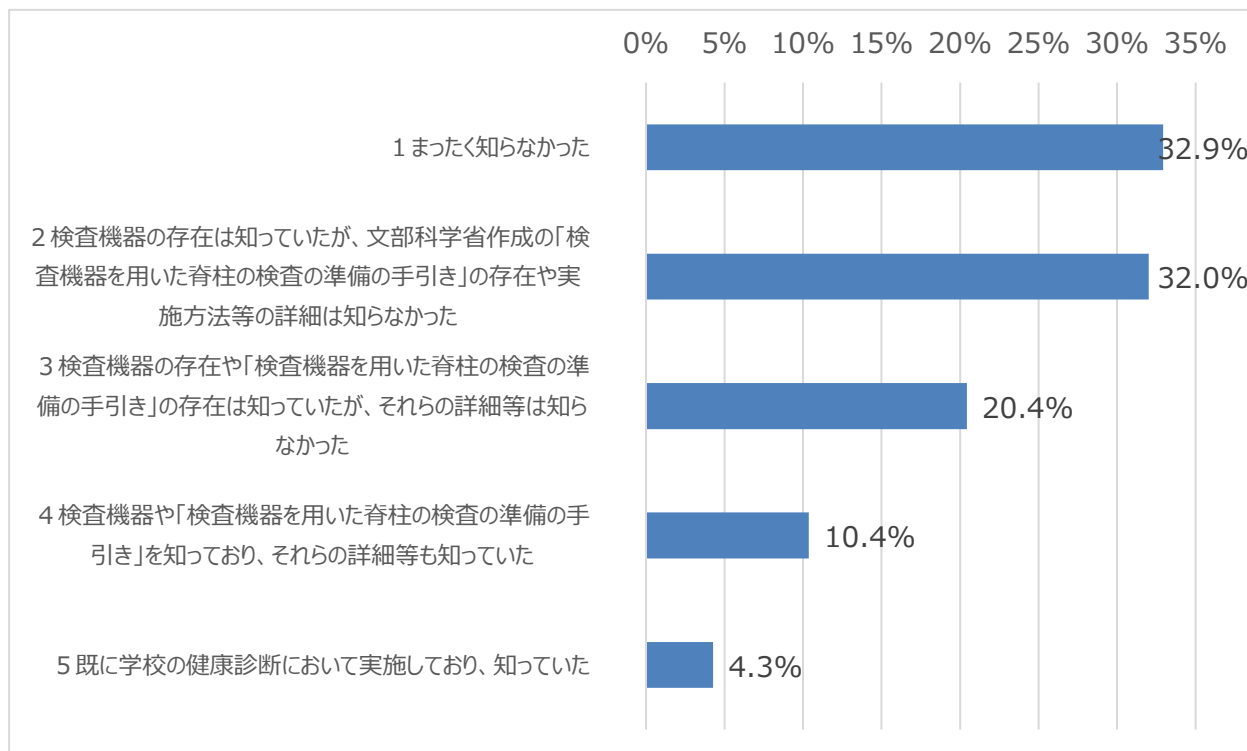
## (2) 認知

**設問：** 本体験会にご参加いただく前、検査機器を用いた検査について、どの程度ご存じでしたか。

**結果：** 検査機器を用いた検査を「まったく知らなかった」方は、参加者全体の 32.9%であった。

「検査機器を用いた脊柱の検査の準備の手引き」の存在を知らない方は、選択肢 1 と 2 を合わせて参加者全体の 64.9%であった。

**図表 2-5 本体験会前の「検査機器を用いた検査」の認知度 (n=328)**



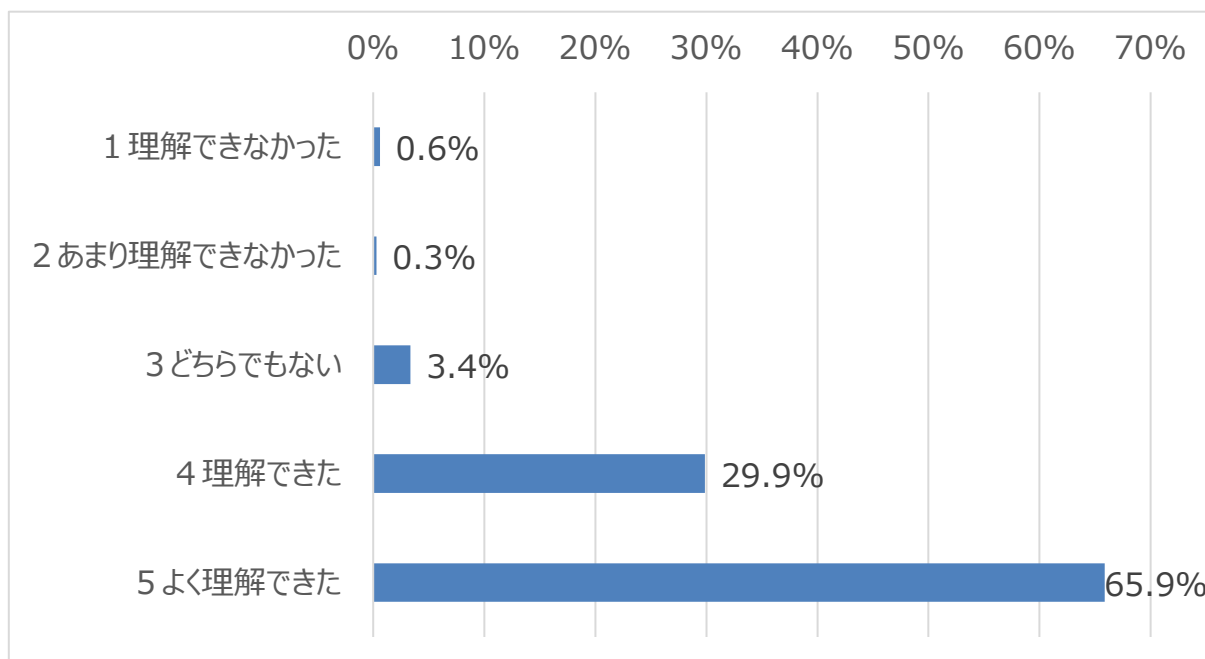
選択肢/人数 (%)	合計	川崎市	岡山県	北海道/札幌市	香川県	宮城県	和歌山県	埼玉県	群馬県
1 まったく知らなかった	108 32.9%	17 27.0%	33 60.0%	29 46.0%	8 16.3%	3 30.0%	8 24.2%	2 7.7%	8 27.6%
2 検査機器の存在は知っていたが、文部科学省作成の「検査機器を用いた脊柱の検査の準備の手引き」の存在や実施方法等の詳細は知らなかった	105 32.0%	30 47.6%	13 23.6%	18 28.6%	12 24.5%	2 20.0%	9 27.3%	13 50.0%	8 27.6%
3 検査機器の存在や「検査機器を用いた脊柱の検査の準備の手引き」の存在は知っていたが、それらの詳細等は知らなかった	67 20.4%	8 12.7%	6 10.9%	7 11.1%	18 36.7%	3 30.0%	10 30.3%	7 26.9%	8 27.6%
4 検査機器や「検査機器を用いた脊柱の検査の準備の手引き」を知っており、それらの詳細等も知っていた	34 10.4%	7 11.1%	2 3.6%	7 11.1%	6 12.2%	2 20.0%	4 12.1%	1 3.8%	5 17.2%
5 既に学校の健康診断において実施しており、知っていた	14 4.3%	1 1.6%	1 1.8%	2 3.2%	5 10.2%	0 0.0%	2 6.1%	3 11.5%	0 0.0%
合計	328 100%	63 100%	55 100%	63 100%	49 100%	10 100%	33 100%	26 100%	29 100%

### (3) 理解度

**設問：** 本体験会を通して、検査機器を用いた検査の実施方法は理解できましたか。

**結果：** 検査機器を用いた検査の実施方法について、「よく理解できた」（65.9%）、「理解できた」（29.9%）と回答しており、合わせて95.8%の参加者が理解できた結果であった。

**図表 2-6 「検査機器を用いた検査」の実施方法に対する理解度(n=328)**



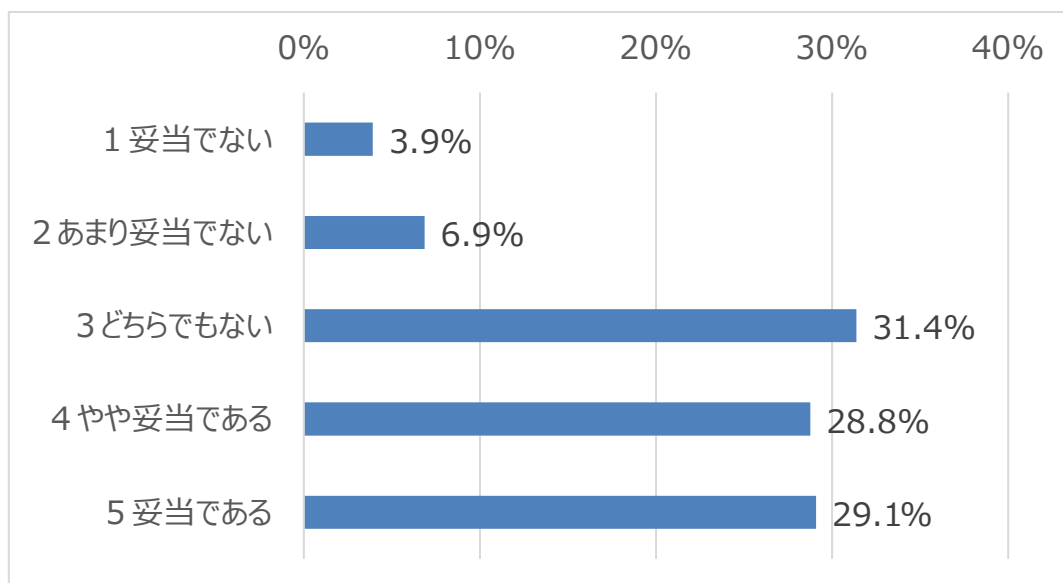
選択肢/人数 (%)	合計	川崎市	岡山県	北海道/ 札幌市	香川県	宮城県	和歌山県	埼玉県	群馬県
1 理解できなかった	2 0.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.4%
2 あまり理解できなかった	1 0.3%	1 1.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
3 どちらでもない	11 3.4%	3 4.8%	1 1.8%	2 3.2%	2 4.1%	0 0.0%	1 3.0%	0 0.0%	2 6.9%
4 理解できた	98 29.9%	21 33.3%	19 34.5%	21 33.3%	13 26.5%	2 20.0%	11 33.3%	3 11.5%	8 27.6%
5 よく理解できた	216 65.9%	38 60.3%	35 63.6%	39 61.9%	34 69.4%	8 80.0%	21 63.6%	23 88.5%	18 62.1%
合計	328 100%	63 100%	55 100%	63 100%	49 100%	10 100%	33 100%	26 100%	29 100%

#### (4) 準備

**設問：**検査機器を用いた検査の準備に要する時間は、実際の運用に際して妥当であるか。

**結果：**学校での実際の運用を想定すると、検査機器を用いた検査の準備については、「妥当である」(29.1%)、「やや妥当である」(28.8%)であった。一方で、「どちらでもない」(31.4%)と回答する方も見られた。

**図表 2-7 検査機器を用いた検査の準備時間は妥当であるか (n=306)**



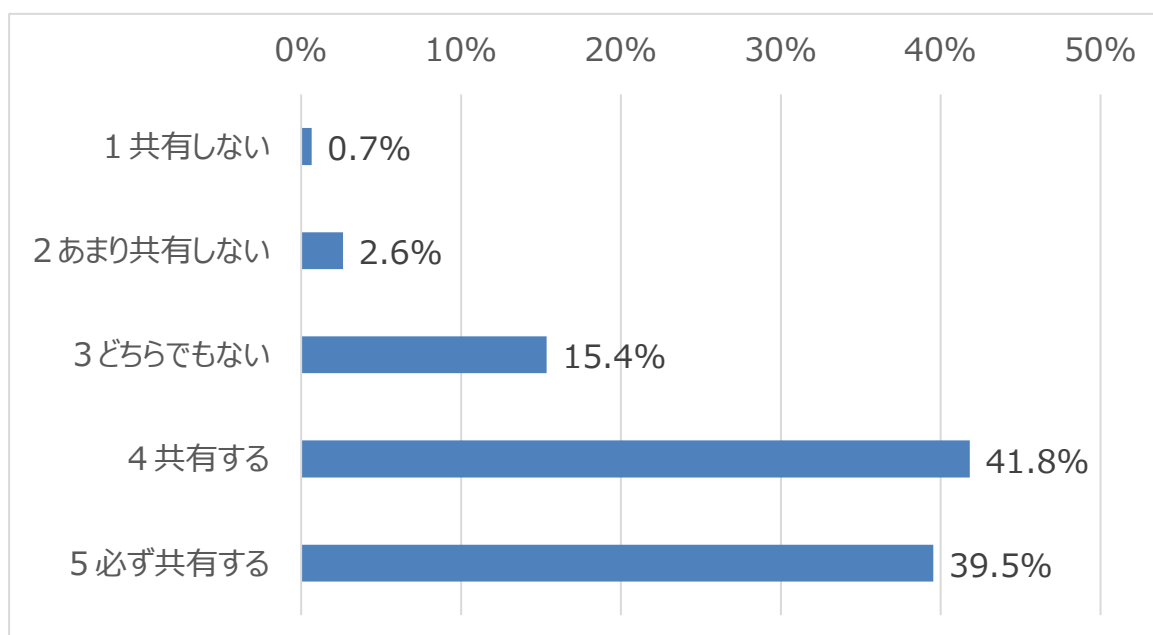
選択肢/人数 (%)	合計	川崎市	岡山県	北海道/ 札幌市	香川県	宮城県	和歌山県	埼玉県	群馬県
1 妥当でない	12 3.9%	2 3.2%	0 0.0%	7 11.7%	1 2.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.2%	1 3.8%
2 あまり妥当でない	21 6.9%	10 15.9%	1 1.9%	7 11.7%	3 7.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
3 どちらでもない	96 31.4%	17 27.0%	16 30.8%	24 40.0%	10 25.0%	2 20.0%	8 25.8%	7 29.2%	12 46.2%
4 やや妥当である	88 28.8%	19 30.2%	22 42.3%	7 11.7%	16 40.0%	1 10.0%	12 38.7%	6 25.0%	5 19.2%
5 妥当である	89 29.1%	15 23.8%	13 25.0%	15 25.0%	10 25.0%	7 70.0%	11 35.5%	10 41.7%	8 30.8%
合計	306 100%	63 100%	52 100%	60 100%	40 100%	10 100%	31 100%	24 100%	26 100%

## (5) 共有

**設問：** 本体験会で学んだ内容を職場・関係者に共有したいと思いますか。

**結果：** 本体験会で学んだ内容について、「必ず共有する」(39.5%)、「共有する」(41.8%)と回答しており、合わせて 81.3%の方は今回の体験会の内容を職場・関係者に共有すると回答した。

図表 2-8 本体験会で学んだ内容を共有したいか (n=306)



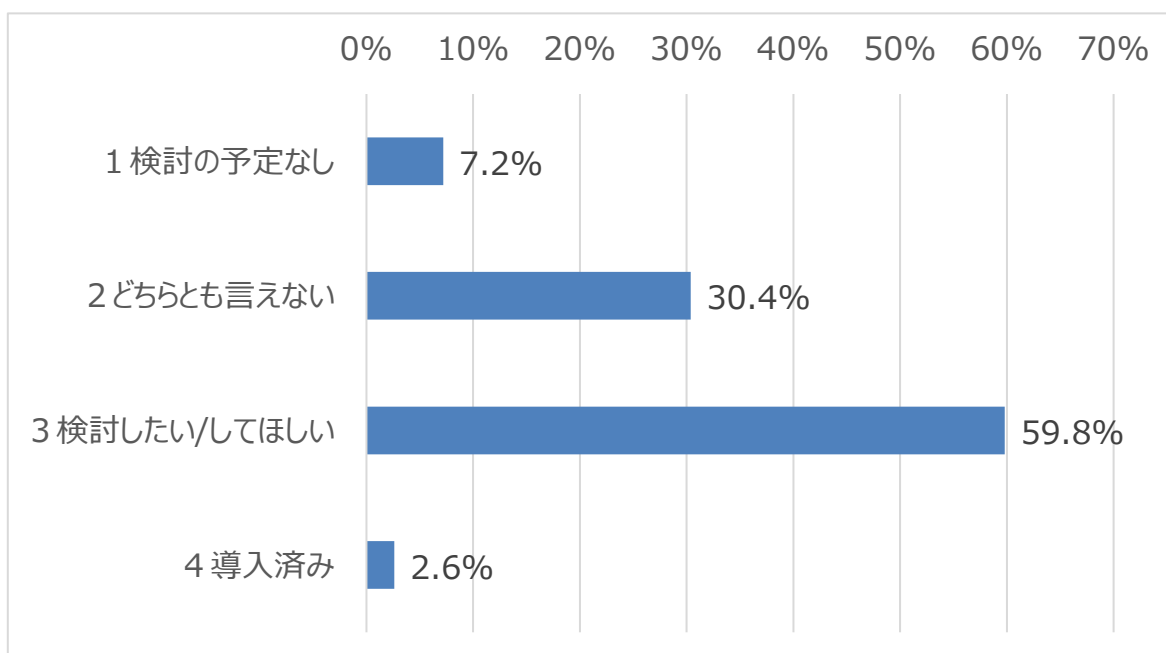
選択肢/人数 (%)	合計	川崎市	岡山県	北海道/ 札幌市	香川県	宮城県	和歌山県	埼玉県	群馬県
1 共有しない	2 0.7%	1 1.6%	0 0.0%	1 1.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
2 あまり共有しない	8 2.6%	2 3.2%	1 1.9%	3 5.0%	1 2.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.8%
3 どちらでもない	47 15.4%	10 15.9%	14 26.9%	10 16.7%	6 15.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 8.3%	5 19.2%
4 共有する	128 41.8%	26 41.3%	25 48.1%	26 43.3%	18 45.0%	4 40.0%	12 38.7%	7 29.2%	10 38.5%
5 必ず共有する	121 39.5%	24 38.1%	12 23.1%	20 33.3%	15 37.5%	6 60.0%	19 61.3%	15 62.5%	10 38.5%
合計	306 100%	63 100%	52 100%	60 100%	40 100%	10 100%	31 100%	24 100%	26 100%

## (6) 導入意向

**設問：** 本体験会を踏まえ、貴自治体または貴校にて検査機器の導入を検討したい/してほしいですか。

**結果：** 「検討したい/してほしい」との回答が 59.8%であった。一方で、「どちらとも言えない」との回答が 30.4% であった。

図表 2-9 検査機器の導入意向 (n=306)



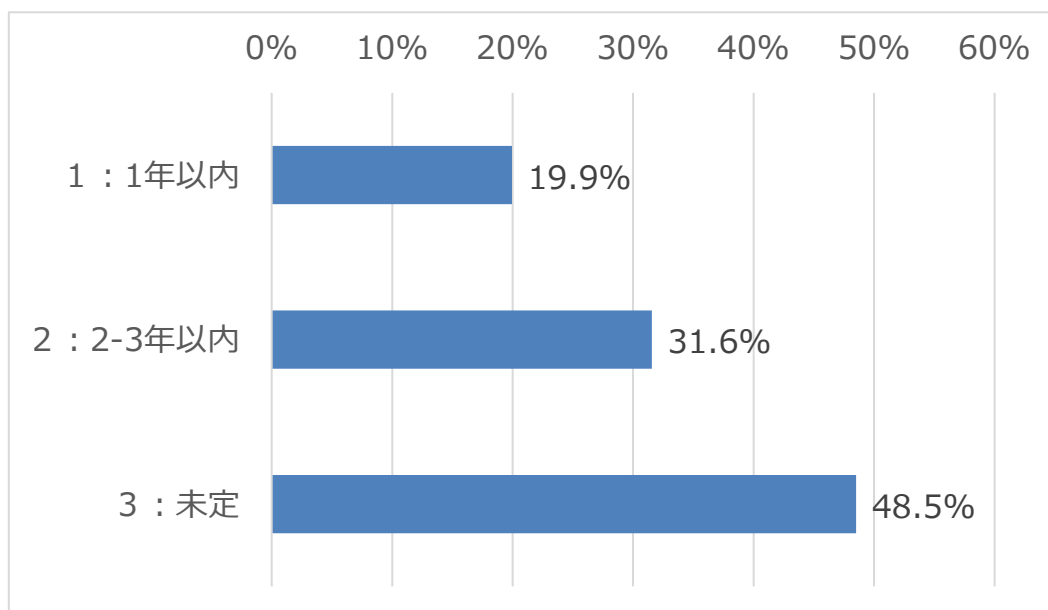
選択肢/人数 (%)	合計	川崎市	岡山県	北海道/ 札幌市	香川県	宮城県	和歌山県	埼玉県	群馬県
1 検討の予定なし	22 7.2%	4 6.3%	1 1.9%	10 16.7%	2 5.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.2%	4 15.4%
2 どちらとも言えない	93 30.4%	18 28.6%	19 36.5%	23 38.3%	10 25.0%	3 30.0%	7 22.6%	2 8.3%	11 42.3%
3 検討したい/してほしい	183 59.8%	39 61.9%	31 59.6%	27 45.0%	27 67.5%	7 70.0%	24 77.4%	17 70.8%	11 42.3%
4 導入済み	8 2.6%	2 3.2%	1 1.9%	0 0.0%	1 2.5%	0 0.0%	0 0.0%	4 16.7%	0 0.0%
合計	306 100%	63 100%	52 100%	60 100%	40 100%	10 100%	31 100%	24 100%	26 100%

## (7) 導入時期

**設問：**導入の検討したい/してほしい場合、いつ頃の導入を検討/希望していますか。

**結果：**導入時期の検討/希望は、「1年以内」(19.9%)、「2-3年以内」(31.6%)との回答の一方で、「未定」と回答した方は、48.5%であった。

**図表 2-10 導入時期の検討/希望 (n=301)**



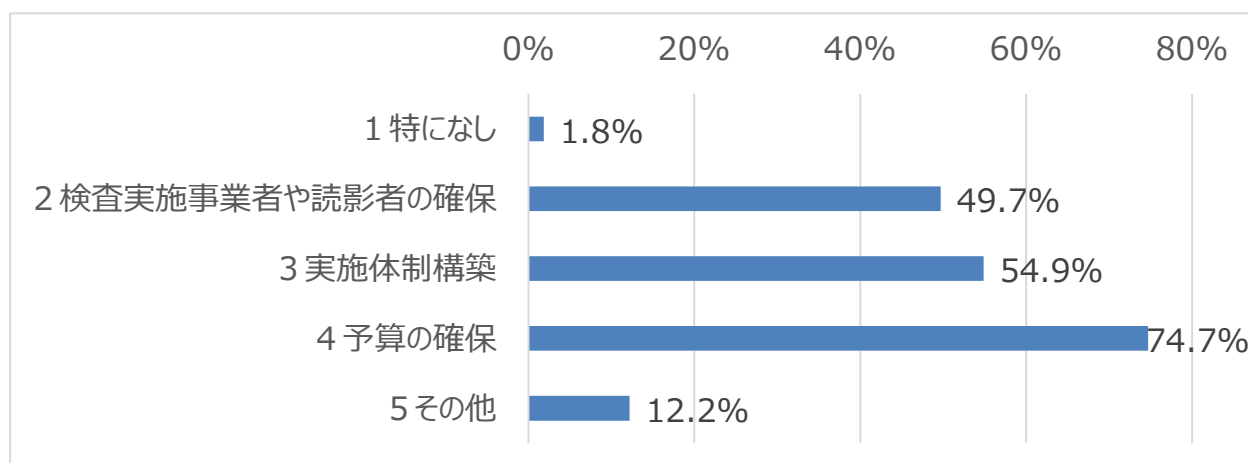
選択肢/人数 (%)	合計	川崎市	岡山県	北海道/ 札幌市	香川県	宮城県	和歌山県	埼玉県	群馬県
1 : 1年以内	60	12	12	12	6	0	13	3	2
	19.9%	20.3%	20.3%	20.3%	15.8%	0.0%	41.9%	13.0%	9.1%
2 : 2-3年以内	95	18	18	18	16	5	5	9	6
	31.6%	30.5%	30.5%	30.5%	42.1%	50.0%	16.1%	39.1%	27.3%
3 : 未定	146	29	29	29	16	5	13	11	14
	48.5%	49.2%	49.2%	49.2%	42.1%	50.0%	41.9%	47.8%	63.6%
合計	301	59	59	59	38	10	31	23	22
	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

## (8) 課題

**設問：**検査機器の導入の検討において課題と思われることはありますか。（複数回答可）

**結果：**「予算の確保」を課題に思う方が 74.7%であり、実施体制構築（54.9%）、検査実施事業者や読影者の確保（49.7%）との回答があった。「その他」の主な意見は、下記の通りである。（複数回答可のため n=328 を分母として割合を計算している）

図表 2-11 検査機器の導入の検討における課題（複数回答可）（n=328）



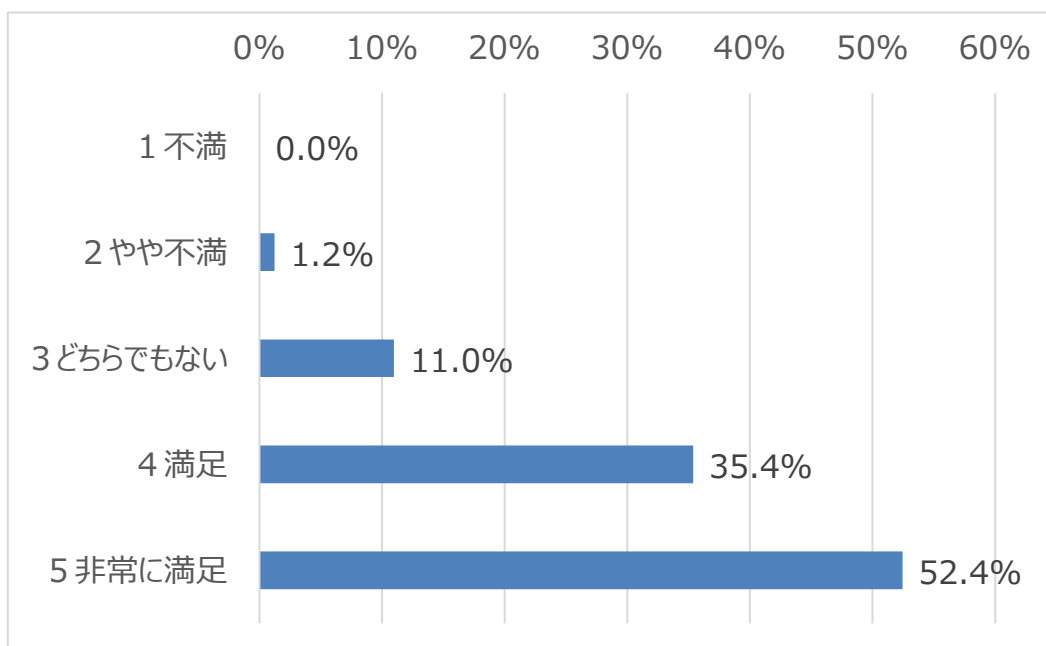
分類	その他課題と思うこと自由記述回答（抜粋）
検査実施の方法・時間の確保等	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 検査実施の時間の確保及び日程調整が必要である。</li> <li>➤ 実施するための十分なスペースの確保及び補助者の確保が求められる。</li> <li>➤ プライバシーへの配慮及び実際の運営方法について検討する必要がある。</li> <li>➤ 現在の視触診での検査は全学年実施しているため、対象学年をどうするか検討する必要がある。</li> <li>➤ 検査の有効性は理解しているが、すぐに導入することには迷いがある。検査実施事業者への説明や練習の必要性等運用面で検討すべき点が多い。</li> </ul>
検査実施者	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 学校医や養護教諭とは別に、検査実施事業者による検査を希望する。</li> <li>➤ 教職員が検査を行う場合は研修が必要である。</li> </ul>
児童生徒及び保護者の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 保護者及び児童生徒の理解を得るため、説明方法に配慮が必要である。</li> <li>➤ 保護者及び教職員の理解・協力が得られるか懸念がある。</li> </ul>
検査機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 検査機器によって違いがあるため、地域の事情に応じてメリット・デメリットの整理が必要である。</li> <li>➤ データ管理や脱衣の問題について導入に際して慎重に検討する必要がある。</li> </ul>
学校医の理解・連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 学校医と相談・調整が必要である。</li> <li>➤ 学校側の協力体制が重要となる。</li> </ul>

## (9) 満足度

**設問：** 本体験会の総合的な満足度についてお聞かせください。

**結果：** 「非常に満足」(52.4%)、「満足」(35.4%)と回答しており、合わせて87.8%の参加者が満足したとの回答であった。

図表 2-12 本体験会の総合的な満足度 (n=328)



選択肢/人数 (%)	合計	川崎市	岡山県	北海道/ 札幌市	香川県	宮城県	和歌山県	埼玉県	群馬県
1 不満	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
2 やや不満	4 1.2%	1 1.6%	1 1.8%	2 3.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
3 どちらでもない	36 11.0%	15 23.8%	2 3.6%	7 11.1%	2 4.1%	0 0.0%	5 15.2%	0 0.0%	5 17.2%
4 満足	116 35.4%	22 34.9%	21 38.2%	28 44.4%	12 24.5%	3 30.0%	11 33.3%	9 34.6%	10 34.5%
5 非常に満足	172 52.4%	25 39.7%	31 56.4%	26 41.3%	35 71.4%	7 70.0%	17 51.5%	17 65.4%	14 48.3%
合計	328 100%	63 100%	55 100%	63 100%	49 100%	10 100%	33 100%	26 100%	29 100%

## (10) 体験会で最も役に立った内容・意見

**設問：** 本体験会で最も役に立った内容についてお聞かせください。（自由記述）

**結果：** 体験会参加者からの意見について、回答を整理・集約した結果は、下記の通りである。

分類	自由記述回答（集約）
理解・イメージの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 実際に検査機器を見て体験することで、検査の流れや所要時間、会場設営のイメージが具体的に理解できたとの意見が多く見られた。</li> <li>➤ 受診者側と実施者側の両方を体験できたことにより、児童生徒への配慮点を含め、現場での実施を想定しやすくなったとの意見が多く見られた。</li> <li>➤ 視触診のみでは脊柱側弯症を見逃す可能性もあることを実感できたとする意見もあり、検査機器を用いた検査の意義について理解が深まったことが示唆された。</li> </ul>
検査機器のメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 検査機器を用いた検査は、数値や画像による客観的なデータが得られる点について、説明や受診勧奨に有効であるとの評価する意見が多く見られた。</li> <li>➤ 短時間で実施できる点、スクリーニング検査として有効である点を評価する意見が多く見られた。</li> <li>➤ 着衣で実施可能な検査方法について、児童生徒の心理的・身体的負担が少ない点を評価する意見が多く見られた。</li> </ul>
導入・運用にあたっての懸念点	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 導入にあたって、予算の確保、実施体制の構築、人員確保が課題であるとの意見が多く見られた。</li> <li>➤ 養護教諭のみで検査機器を用いた脊柱の検査を担うのは負担が大きいとの意見が見られ、学校医・医師会との事前連携による役割分担や理解促進が必要であるとの指摘があった。</li> <li>➤ プライバシーへの配慮やデータ管理のあり方について、十分な検討が必要であるとの意見が見られた。</li> </ul>
今後に向けた示唆・要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 教育委員会向けの説明や働きかけをより強化してほしいとの意見が多く見られた。</li> <li>➤ 他自治体における導入事例の共有、研修会、モデル校での実施等を通じて、より具体的な情報提供を求める意見が多く見られた。</li> <li>➤ 体験会を今後も継続的に実施してほしいとの要望が多く示された。</li> </ul>

## (11) 意見・要望等

**設問：** 本体験会をよりよくするためのご意見やご要望がございましたらお聞かせください。（自由記述）

**結果：** 体験会参加者からの意見について、回答を整理・集約した結果は、下記の通りである。

分類	自由記述回答
導入に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 検査機器を用いた脊柱の検査について、その必要性や有効性は理解できたものの、実際の導入に向けては、教育委員会や自治体としての判断が重要であるとの意見が多く見られた。</li> <li>➤ 学校単位ではなく、自治体単位での導入検討や体制整備を進めてほしいとの要望が見られたほか、教育委員会主催の研修会等で説明の機会を設けることで、導入に向けた検討が進みやすくなるのではないかと指摘があった。</li> <li>➤ 全国的に導入されるとよいので、多くの教育委員会や学校医にも参加してもらえるような機会があるとよいとの意見が見られた。</li> </ul>
課題に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 実際に導入するにあたっては、予算の確保や人員体制の構築が課題であるとの意見が多く見られた。</li> <li>➤ 養護教諭のみで検査の対応を行うのは、負担が大きいとの指摘する意見が多く見られた。</li> <li>➤ 検査機器を用いた脊柱の検査を誰が実施するのか、学校医や医師会との連携が不可欠であり、事前に十分な検討が必要であるとの意見が多く見られた。</li> <li>➤ 学校現場での運用を想定した提案をしてほしいとの意見も見られた。</li> </ul>
情報提供・資料等に関する要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 体験会の内容について、より多くの関係者に共有できるように、説明資料やパンフレットの配布や動画等の分かりやすい資料が欲しいとの要望が多く見られた。</li> <li>➤ 動画等があれば、参加できなかった関係者にも共有しやすいとの指摘があった。</li> <li>➤ 検査機器の費用や導入までの流れが分かる資料がほしいとの要望が見られた。</li> </ul>
体験会の運営に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 体験会の形式については、実際に体験できる点分かりやすく有意義であったとの評価が多く寄せられた。</li> <li>➤ より多くの参加者が参加しやすいように、開催回数の増加や、開催地域・開催時間の工夫を求める意見が多く見られた。</li> <li>➤ 学校医、医師会関係者、学校の管理職等、より幅広い関係者にも参加してもらえる機会があるとよいとの意見が多く見られた。</li> </ul>

### 第3章 総括・今後への課題等

#### 1 認知・理解度について

本体験会に参加する前の段階では、「全く知らなかった」と回答した者が60%である会場もあった。また、「検査機器を用いた脊柱の検査の準備の手引き」の存在を知らない者が多いことも明らかになった。

本体験会を通して、検査機器を用いた検査の実施方法について、参加者の約96%が、「よく理解できた/理解できた」と回答した。

#### 2 準備・情報共有・導入意向について

検査機器を用いた検査を導入することになれば、学校において新たに検査を追加することになるため、特に養護教諭にとっては、当初の想定よりも負担が増えると感じた者が一定数いることが分かった。

検査機器を用いた検査をどのように実施するのかについては、学校数や児童生徒数等も含めて地域の実情等に応じた計画を立てるとともに、学校現場の負担等について十分に考慮する必要がある。

なお、導入意向については、参加者の59.8%が「検討したい/してほしい」と回答しており、導入時期については、「1年以内」（19.9%）、「2～3年以内」（31.6%）、「未定」（約48.5%）という結果であった。

#### 3 体験会の満足度について

体験会全体として、約88%が「非常に満足」「満足」と回答した。参加者からは、「検査機器があることを知ることができた」「検査機器の利用方法、実際の検査イメージができた」「検査準備や検査当日の人員配置等も具体的にわかり、検査のイメージがしやすかった」等のコメントがあった。

一方で、「導入は簡単ではないということが分かった」「実際に学校現場で活用するためには、準備やデータ判断等まだ難しい部分が多いと感じた」等のコメントもあった。

#### 4 今後の課題について

今回のような体験会は、検査機器を用いた脊柱の検査の意義や脊柱側弯症の疾病への理解を高める上で効果的であった。

一方で、教職員だけでなく、教育行政関係者や保護者等に対しても脊柱の検査の意義やその必要性を分かりやすく周知することが重要であると考えられる。

さらに、体験会より一歩進んで、実際の導入検討の前段階として、モデル校で実証調査を行うことは、事前に対応方法を具体的に確認できる点で有効な手段と考えられる。

文部科学省 脊柱の検査等に関する理解増進事業  
検査機器を用いた脊柱の検査に係る体験会  
実施報告書

令和 8（2026）年 3 月  
株式会社 NTT データ経営研究所  
〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-9 JA 共済ビル 10 階  
TEL： 03-5213-4110 FAX： 03-3221-7022